

理事長杯ヨットレースは4年ぶりの開催で30回の節目のレースになった。

DB はスターボーでスタートすると直ぐにタックして帆走区域ブイを目指した。

幸い風にも恵まれて我々には美味しい6ノット前後。小島をかわすタイミングを見てタック。こちらのタックはブイには角度が深いので浅いほうを走るべくタックを返すと、ポートの走りが悪い、明らかにホーネットがいい角度だ。振れに合わせてタックを繰り返して帆走区域ブイを回航する。

スピナップして次のマークを探すと本部艇が並走していてその行く先にブイを発見。早めのジブアップ、スピンドウン、少々まごついて後ろを見るとスーパーウェーブがすぐそこに見える。

次のレグもスピード維持に注力すると振れも味方して再びの帆走区域ブイも回航できた。

最後のレグは一本では行けずVMGを考えスピード重視でジャイブを繰り返しながらフィニッシュラインを目指す。振り返るとスーパーウェーブは着実に追い付いて来ている。あと少しなのに風が振れてスピンはもう無理か、と思わせるとスーパーウェーブは早々にスピンを諦めてジブをホイストした。DBはもう少し頑張っでスピンドウで走り続けてそのままフィニッシュできた。

この記念すべき大会に勝てた事は大変嬉しいものになった。表彰式で優勝カップを頂いてしげしげと見ると過去の優勝艇のペナントが名前を連ねている。第一回大会の優勝艇はセクシーユード。10回大会はDB、20回大会もDB。そして30回大会にもDBを加えることができた。

また理事長杯の過去最多優勝艇はというとアルミスとダンシングで5回ずつ、ホーネットが3回で何故かしら23回と24回はノーレースとある。また、27、28、29回とペナントが付いていない。さあ、これからはどの艇がペナントを増やして行くのか、楽しみである。大会運営に携わって頂いた方々には大変ご苦労様でした。今後とも伝統のレースを是非よろしくお願ひします。ありがとうございました！

DBIII 安藤

